

2011年3月9日  
北沢向日

# 北沢タウンホールにて「発達障害理解のための講演会」を開催しました

## はつたつしうがいとうじしゃき 発達障害のある当事者から聞く

当センターでは『発達障害理解のための講演会』を開催しています。今回は世田谷区でも長年発達障害者支援を行ってきた石井哲夫(社会福祉法人嬉泉常務理事・東京都発達障害者支援センター長)が、成人の発達障害のある当事者2名との鼎談を行いました。発達障害があるとはどういうことか、発達障害のある人への必要な支援とは何かについてお話し頂いた内容の一部をご紹介します。

## 【自分の特性に気がついたのは・・】

コミュニケーションのこととか友達とか勉強とか、他の兄弟に比べて自分はできなかつたのでなんか違うなと感じていました。大学の相談室で自閉症かADHDじゃないかと言われ調べているうちにオウム返しとかコミュニケーションの難しさとか当てはまると思ってました。

## 【いじめ・・】

自分のできないことで1対1で責められることが多かったです。初めは心配かけたくないと思って言わなかつたんですけども、後から先生にどんどん言ってもいいよと言わされてから、声をかけるようになりました。

**司会より**：人に言われて悩んでいる状態は、外側からわからない。非常におとなしくて、弱々しくて、返事をしなくともっと元気になれとか、積極的になれと（周囲の人は）言うけれども、「自分としてはこれで精一杯やっているんだ」ということをわかってもらいたいということですね。

ていろいろとに驚きました。社会が複雑になつて、生きづらくなつてしまつたのですね。もっと大らかにキャパシティの広がつた世の中になつていかなければなりません。紳士的な様子が、せつなさを感じました。

\* 障害を今まであまり理解しようと努力していなかつたことを実感させられました。当事者の方々が大変な努力をしていのだから受け入れる側も気持ちをくみ取る努力をしなければいけないと切実に思いました。

\* 漠然としていた発達障害の当事者の生きづらさが少しわかつた。石井氏の社会の側の問題なのだと言われた言葉がその通りだと思った。

\* 仕事場で同じ様な考え方の人に対する理解が持てず対していました。今回の話を聞くことで、もう少しわかつてあげられたらと感じました。

0代男性。大学卒業後、  
イケアを経て地域の  
労支援機関で就労支  
援を受けてきた。現在  
高機能自閉症がある  
とをオープンにした  
患者雇用で清掃等の  
事に従事。

## 【職場では・・】

自分のコミュニケーションの難しさをわかってくれ、当然雑談とか苦手なんですがほとんど言われることがないです。オープンにしてよかったです。

## 【わかつてほしいことは・・】

自分をストレスのはけ口として言つた側はすっきりして忘れても、言われた私はストレスがたまって、実は暴れてもおかしくなつたし、情緒不安定になつたりもしました。私の弱いところだけを指摘するのは社会的にもなんか不公平だなあと感じました。

配慮してもらいたい点は、注意するときはやさしく声をかけてほしいとか、注意するだけでなく、自分の生きにくさを、言いたいことがなかなか言えないっていう、つらかったことを共感してもらえると非常にありがたいと思っております。

## 会場の声

## 【家族や周囲との関係は・・】

これまで波風をたてないよう姉のご機嫌をうかがったり、父や母に対しても怒られたりしないように注意して生活していたと思います。  
いじめっ子の近くには近寄らないようにしていました。

Bさん

## 【人の付き合いは・・】

不特定多数の人たちとずっと人間関係を保っていくということだけが苦手なのであって、それほど人數が多くなければ難しいことではないと思っています。

40代男性。大学卒業後、いくつかの仕事を経て、3年前医療機関を受診。アスペルガー症候群と診断を受ける。現在は障害者雇用で設備管理等の仕事を従事。

## 【アンバランスさ・・】

できることとできないことの差が激しい  
感じがします。型にはまったことはでき  
ますが、臨機応変は苦手で、例えば参考書  
を見たり細かく聞いてからでないと安心  
して作業が進められないことが多いで  
す。でもとにかくできるようになるまで  
時間をいただきたい。

司会より：(自分が得意な)型にはまつた仕事だけではなく、(苦手なことでも)時間をかけてでも自分で考えてやれるようにしていきたいということですね。

## 鼎談を終えて..

**Aさんから**：今日は皆さんに対してどういうふうに言えばいいのかと、結構悩んでいたりしましたが、自信はないんですけど、多少なりとも言えたかなあと思います。

**Bさんから**：自分は何を考えながら生活していたのか、どういうふうに仕事に取り組もうか、生活していくか、声に出して言っているうちに、少しづつ方向性がみえてきた感じがします。

**司会(石井哲夫)から**：障害や能力の有無、仕事ができるとかできないとかで人を見ることが、当事者のAさんを人間不信に、Bさんを人との接触を避けるという状況にしていたのだと思います。それでもこの二人は今それぞれの職場等で苦労しながらも働き、経験を自分の中にちゃんと取り入れ、行き詰ることがあってもそれを乗り越えられるよう自分を育ててこられたことに私は大変敬服しています。

話す努力をすることいろいろなことを考へるようになったとお二人もおっしゃっています。私も言葉の力を教えられました。当事者が言い足りないことを補う当事者性を、この世田谷区発達障害相談・療育センターでもすすめていってもらいたいと思います。お二方には大変長い時間お話し頂きました。一生懸命お話し頂いたことを心から感謝します。